

「ロンドン・リサイタル企画に参加して 体験レポート」

ピアノ教師;副島智子



コンサートの風景

「ロンドン・リサイタル企画」に私は参加しました。

英国ロンドンの教会にて、長年伝統的に開催しているランチタイムリサイタル」に出演するというものです。

リサイタル演奏時間は 30 分、密度が濃く、皆さん熱心に、集中して聴いていただきました。

外国にて聴衆の前でピアノを弾く、ロンドンという土地も初めて、何もかも初めて尽くしで大変緊張しておりました。が、現地へ行ってみると、そんな必要はない事がわかりました。



教会前、ロンドン名物二階建てバス

ロンドン・ヒースロー空港へ到着すると、プロの日本人女性ガイドがお迎え、ホテルまで連れて行って下さり、チェックイン。ガイド女性は大変親切な方で、彼女自ら作成の「ロンドン市内歩き方マニュアル」を下さり、丁寧でいたれりつくせりの説明とご指導でした。

初めてのロンドンでしたが、意外にも簡単に自分で自由に歩きまわることができ、この魅力的な街の観光を満喫しました。

一流が集う大芸術都市ロンドン。毎晩すてきなコンサートへ出かけ、英国伝統アフタヌーンティー体験等、毎回感激しっぱなしでした。そして、リサイタル前日、この企画内にある、「イギリスの古城宿泊」も忘れられない思い出になりました。

そして、リサイタル当日。朝からアテンドのガイド女性がホテルに迎えにきて、一緒にリサイタルする教会に行き、リハーサル。その間、彼女はつきっきりで私の通訳、その他お世話をして下さいました。配慮あるきめの細かなサポートに感謝しました。



英国国教会

そこは、心に染み入る、美しいステンドグラス多数に囲まれた、りっぱな英国国教会でした。ピアノは、ベヒシュタイン。よく手入れされた年代物。歴史と伝統のこの教会で、ベヒシュタインの優雅な音がヨーロッパの空気に、木魂します。

リサイタル前、皆さんにゆっくり紅茶のサービス、さすが英国！私もいただきました。

さあ、本番です。英国人聴衆は、「Welcome(ウエルカム)！さあ、聞かせて下さいね！」という感じで皆ニコニコしていました。コンサートのはじめ、司会者が品のいいクイーンズイングリッシュで私の事を聴衆に紹介して下さいました。さっと出て行って、シヨパンのワルツ2曲とバラード4番を一生懸命弾き、あっという間の30分。割れるような拍手。暖かく気持ちのいい雰囲気。

後、ドレスを着替えて出てくると、待っていた聴衆の方々が私に駆け寄って来られました。アテンドの通訳を通して対応。「貴女のタッチが私は好きだった、、、云々」と、かなり専門的に熱心に聴いて下さった方。「貴女のピアノで気持ちのいいお昼を過ごせたよ。」等々。英国人の皆さん、とてもフレンドリーで、気さくに声かけて下さいました。「聴衆のリアクション」が日本と全然違うと感じました。

彼らは「音楽」を自分たちの近くに感じて一緒に居るのだなあ、楽しんでいるのだなあ、と思いました。これは私の人生で大きな驚きで、新鮮な事でした。

この「ロンドン・リサイタル企画」は、春と夏定期的に企画されています。ピアノソロだけでなく、ピアノと声楽や楽器のデュオ等複数参加も可能。皆様、思い切って演奏してきて下さい。ぜひお勧め致します。

いきなり世界の大都市ロンドン！長く海外旅行もしていなかった私が、スケール大きく、突然ヨーロッパで演奏させていただいた！日本で演奏活動殆どない私が、こんな「夢のような体験」！人生が豊かになりました。思い切って参加してみて本当によかったです。



古城ホテルと庭



古城ホテルの玄関レセプション



古城ホテルの階段（内部）



古城ホテルのラウンジルーム



英国伝統のアフタヌーンティー